

脱炭素社会に向けた行動変容促進について

(購買行動の脱炭素化・環境教育の促進)

環境森林部

脱炭素・水素社会推進課 岩田、上林
内線 2527、2523

教育委員会 義務教育課 丹下、有留
内線 5351、5352

知事定例記者会見資料
令和7年4月18日(金)

本日の発表内容(概要)

1. 脱炭素にかかる行動変容について

■奈良県脱炭素戦略

- 2030年温室効果ガス45.9%削減、2050年カーボンニュートラル実現に設定。
⇒目標達成には、県民・事業者の皆様のご理解・ご協力が必要

■脱炭素行動変容の必要性

- 行動変容とは、取り巻く環境の変化に対応し、“**自発的に”行動を変える**ことを目指すもの。
- 家庭部門からのCO₂排出量は、29.8%と全国17.3%に比べて高くなっており(右図)、エネルギーの使用や商品選択、日常行動の見直しなど、一人ひとりの**ライフスタイルの転換**が必須。
- 脱炭素化の取組は、**自分ゴトとして捉えづらい**傾向にあるため、多くの人の関心を引きつける**「契機づくり」・「自分ゴト化」がカギ**となる。

■行動変容促進のポイント

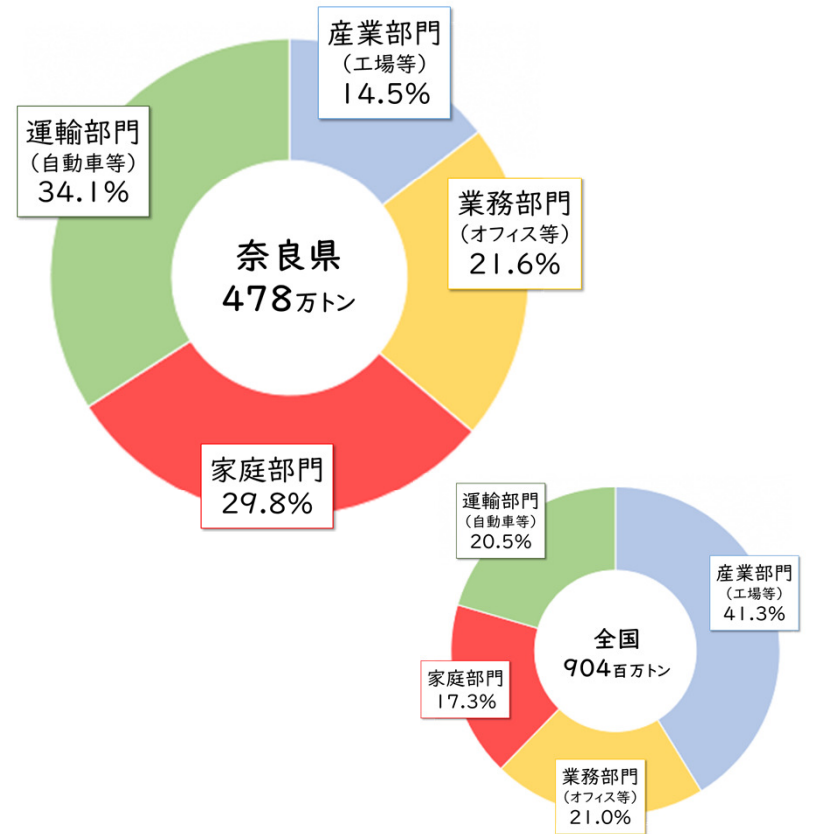
行動が正しく、環境に貢献できていることを理解していただくことが重要。



県民1人ひとりの脱炭素化の取組を促進するため、脱炭素行動変容に関する連携協定を民間企業と締結しました。

協定に基づき、**令和7年5月より、「みんなで減CO₂プロジェクト」を実施**します。大阪府・兵庫県に続いて全国で3番目

奈良県と全国の二酸化炭素(CO2)排出量の部門ごとの割合(2021年度)



「みんなで減CO2プロジェクト」の目的・内容



①購買行動の脱炭素化

- ・脱炭素に資する商品をスーパーやドラッグストアの店舗の棚やアプリを通じて学習する機会の創出

エコラベル研究所

詳細は3ページ

②環境教育／食品ロス対策

- ・エコラベル(脱炭素・食品ロス等に関するマーク)を探索・調査・提出する学習キットの展開
- ・くらしの中でCO2を排出する行動をモンスターとして描画するイラストコンテストの実施

CO2モンスターコンテスト

詳細は3ページ

【協定概要】

奈良県と(株)日本総合研究所、(株)三井住友銀行は、脱炭素社会の実現に向けて、「みんなで減CO2(ゲンコツ)プロジェクト」による 県民の脱炭素行動変容に関する連携協定を締結

1. 内 容 ・小学校等と進めるくらしの脱炭素等の教育啓発や県民向け環境ラベルの普及啓発
・店舗での環境配慮型商品の購入実証及び関連する調整業務、実証結果の検証 など

2. 締結日 令和7年3月4日(火)

ゲンコッ

「みんなで減CO2プロジェクト」事業概要(詳細)

エコラベル研究所

- ・児童(小学4～6年生)を対象に、エコラベルに関する学習や体験を通じて、普段の買い物時にエコラベルの有無を確認するなどの習慣の定着を目指す

【①エコラベル学習キット】

- 学習キットを小学校経由で児童(小学4～6年生)に配布
- 学習したことを特設サイト経由で提出

【②出前授業】

- 「買い物で環境に貢献できること」などをテーマとした出前授業を実施(県内1～2校程度)

【③各小売店での促進キャンペーン】

- 「スーパー万代」「スギ薬局」などの協力店舗において、エコラベル商品をPRすることで、環境に配慮した消費行動を促進



促進キャンペーン (イメージ)



学習キット (イメージ)

CO2モンスターコンテスト

- ・電気のつけっぱなしや、レジ袋の購入などくらしの中での無駄をCO2モンスターと見立て、描くことで脱炭素への関心を高める
- ・家庭内でCO2削減に関する会話の契機となり、環境意識を醸成し、脱炭素化の取組につなげる

[実施方法等]

- 学校を通じて児童(小学4～6年生)を対象に募集
- 審査を実施し、優秀作品を決定・表彰



応募キット (イメージ)

令和7年 5月

「みんなで減CO2プロジェクト」 スタート

エコラベル研究所

7月頃 「エコラベル学習キット」 配付

7月中旬～9月上旬 学習キットにて、家庭学習 → 特設サイトから学習内容を提出

9月頃 出前授業（1校～2校程度）を実施

CO2モンスターコンテスト

10月頃 「CO2モンスターコンテスト」 作品募集開始

令和8年 2月頃 「CO2モンスターコンテスト」 優秀作品 決定・表彰